

著者が語る 社会調査テキスト

杉山明子 社会調査協会顧問・専門社会調査士
河野啓 専門社会調査士



杉山明子編著
朝倉真粧美・氏家 豊・小野寺典子
河野 啓・森本栄一著
『社会調査の基本』

朝倉書店
新版 2011年(写真右)
旧版 1984年(写真左)

本書の前身は、1984年刊行の杉山明子著『社会調査の基本』であり、日本行動計量学会のシリーズ、林知己夫編『現代人の統計』の1冊に収録されている。

戦後日本では「科学的な」世論調査と称して、朝日、読売、毎日、NHK等のマスコミ各社が、ランダム・サンプリングによる世論調査を実施した。NHKでは、統計の基礎は林知己夫先生(文部省統計数理研究所)を中心に指導を受け、高宮義雄氏が参画して調査設計にあたった。1957年に入局した杉山は、あるていど骨格のできたサンプリング調査から参加し、なぜそうするのかと疑問に感じる事が多々あったので、わからないことはノートに書きとめておいた。これはその後の研究の基礎になった。

1984年刊行の旧版は、数学や統計の基礎がなくても調査の作業の実際を学べるように、NHK各放送局の世論調査担当者むけにまとめた『サンプリング調査の理論と実際』(1978年)を下敷きにし、それに杉山が東京大学教養学部で「社会調査実習」を担当したさ

いのテキストを加えてまとめた。

当時、朝倉書店の編集担当者だった柏木信行氏は、毎週月曜日に原稿を取りにNHK放送文化研究所がある愛宕山に登ってきた。杉山は土日に原稿が書けなかったときもあり、柏木氏は話をしてコーヒーを飲んで帰られたこともあった。そのときにずいぶん励まされたことが印象に残っている。

本書(新版)は、朝倉書店編集者の高橋正樹氏の強い薦めにより実現した。旧版は1999年に16版をもって終了し、その後は注文のあるときに複製出版してきた。高橋氏は、発刊後四半世紀が過ぎたにもかかわらず継続して売れている理由は、

- (1) 実験調査を重ねているため
- (2) データが豊富であるため

と指摘している。そこで、需要があるから新しくつくったほうがよいと、杉山は出版を薦められた。

しかし、杉山自身はNHK定年後に調査の現場を離れていた。そこで、調査研究に従事していたNHKの河野啓と小野寺典子を中心に、NHK以外の調査機関からも幅広く、元・新情報センターの氏家豊、ビデオリサーチの森本栄一、朝倉真粧美の3人に執筆を依頼した。その結果、執筆者それぞれの関わった実験調査や研究に基づく知見や「分析・報告」の項を新たに加えることができ、充実した書となった。

調査実施の方法としては、旧版では当時意識調査の主流のランダム・サンプリングによる個人面接法を採用し、これは新版にも引き継ぐことにした。執筆に2年ほどかかり、新版は旧版の27年後の改訂となった。(杉山記)

*

旧版からの四半世紀は社会調査をとりまく環境(法規制、情報処理技術、人びとの生活習慣など)の変化が大きかった。新版では旧版をもとにしつつも、大幅な改訂となったのは、それだけ調査をとりまく環境が変わったこと、新たな実験調査の結果が得られたことがあげられる。

改訂にあたって留意したのは、以下のことである。

- (1) 2006年の住民基本台帳法、公職選挙法の改



写真 新版作成をふり返った著者座談会
左から小野寺典子, 河野 啓, 朝倉真粧美, 氏家 豊, 森本栄一, 杉山明子 (2015年1月17日)

正により名簿の閲覧が制限され、閲覧申請などの要件がきびしくなったため、抽出台帳の項を書きなおした。また、名簿を閲覧できない調査のために、抽出台帳がない場合のサンプリングについて、新たな項を加えている。

(2) プライバシー意識の高まりや2005年の個人情報保護法の施行によって、調査しにくい状況に拍車がかかった。そのため、調査協力依頼状のくふうや調査員への指導など、調査の実施について具体的に記した。また、調査有効率が大幅に低下していることから、調査不能についての分析を書き改めた。

(3) 調査方式については、郵送法と電話調査で大きな変化があった。郵送法は、調査方法のくふうによって有効率が改善され、電話調査は調査相手の選択が名簿方式でなくRDD (Random Digit Dialing) により行われている。それぞれ、調査の特徴や調査方法などについて実績をふまえて書き改めている。

(4) NHKでは「日本人の意識」調査を1973年から5年おきに実施してきているが、2008年調査にあわせ、実験調査を実施した。その実験調査から、調査方式がちがえば、自記式(配付回収法、郵送法)と他記式(個人面接法)とでは回答の分布にちがいがあることがあらためて確認され、その比較研究の成果を盛り込んでいる。

(5) 集計の部分では、情報処理技術の進歩にそった内容に改め、集計仕様書の作成についての説明を加え実践的となっている。検定についても、計算例とともに、説明をわかりやすくした。

(6) 分析・報告は今回の書き下ろしで、調査報告書作成、時系列調査の分析を加えた。調査報告書作成では、報告書の構成、調査結果の分析手順や報告書作成までのポイントを盛り込んだ。また、より深い分析として、時系列調査である「日本人の意識」調査を例に生まれ年別に見ることで、年をとれば意識が変化すると思われていたことが、じつは「生まれ育った時代を同じくした世代による意識」であることが見えてきたりすることなどを紹介した。

*

この本の特徴は、具体的な研究成果を盛り込んだ豊富なデータにあるが、それは杉山の旺盛な好奇心に支えられている。サンプリングや調査手法など勉強すればさまざまな疑問がわいてくるが、それを実践で確認している。たとえば、サンプリングについては、2段階抽出法の場合、ある一定数以上の調査地点数が必要であるが、具体的にシミュレーションして検討材料を得ている。それは調査で地点数を決めるさいのよりどころとなっている。

「日本人の意識」調査は第1回の1973年から9回を数えるが、いまなお示唆に富んだ結果が得られている。それは、第1回調査のさいに十分に練られた質問構成となっていたばかりでなく、ランダム・サンプリングによる基本にそった調査設計がされたからといえよう。

多くの「調査」が世の中に氾濫しているが、いっばうで、その真贋を問う声も少なくない。この書によって、少なくとも社会調査の真贋を区別できる目が養えらるとともに、基本にのつった調査を実施したり、利用できるようになることを期待している。(河野記)